

第17回 令和7年5月9日（金）

「いよいよ今週末から部活によっては3年生最後の総体予選が始まりますね。」

この時期は私にとって結構つらい時期でした。もちろん総体で結果を残すためにがんばるのですが、同時にいつかどこかで負けることは間違いないので、そのとき引退する3年生にどんな言葉をかけるのか、悩む時期でもありました。

試合をやる前から「負けたらどうする」を監督が考えるべきではないというお叱りを受けそうですが、高校生にとって引退するときに顧問からかけられる言葉はずっと心に残ったりします。どの試合も相手は最後と思って必死にくるので、油断はできません。

「今日は負けるはずではなかった」といって、ここを疎かにはできないし、引退までがんばってきた3年生に失礼がないようにと思っていました。

最後のミーティングではずっと昔から3年生一人ひとりと握手をして「ありがとう」の言葉をかけて終わることを続けていました。この時期の3年生には「悔いなく終わって笑って握手をしよう」と声を掛けますが、涙が止まらない生徒も多く、こちらも涙があふれました。

なにより次の練習から3年生がいなくなることが信じられないし、寂しく感じていました。試合に勝って1週間引退が伸びると「この1週間でバスケットができている3年生は限られている。これは努力したご褒美だ。」と生徒に話し、練習を見守りました。

この思いは私に限ったものではなく、皆さんの成長に情熱を注いできた顧問は誰でも同じ思いを抱いているはずです。ぜひ顧問の先生や仲間、後輩と大事な時間を過ごしてください。

一生懸命練習をすれば怪我が起きることもあり得ると思いますが、それでもケアに集中して、怪我や病気で試合に出られないことがないように願っています。

公式戦の日程等、観に行けそうな試合があれば教えてください。調整しながら可能な限り応援します。

勝っても負けても何十年も忘れない試合です。今は悔しくても大人になって笑って話せる試合です。結果ではなくここまでの努力の過程が大事です。全力でプレーして、良い思い出を残してください。